

## 第16回 ちゅうでん教育振興助成（平成28年度）

### 報告書資料 一般-59

学校名・団体名	安城市立安城東部小学校
HPアドレス	<a href="http://swa.anjo.ed.jp/weblog/index.php?id=anjo07">http://swa.anjo.ed.jp/weblog/index.php?id=anjo07</a>
コース	学校支援
活動・研究テーマ	日本デンマークを築いた人たちのパンフレットを作ろう
<p>〈活動・研究の意義、目的〉</p> <p>大正末期から昭和初期にかけて、安城の農業は日本デンマークと呼ばれる農業先進地となった。そのためには、(1)明治用水の開削、(2)開墾による農地の増加、(3)農業教育・技術の普及、(4)産業組合の設立、(5)多角形農業の導入が必要であり、それぞれを代表する人物として、(1)都築弥厚、岡本兵松、伊予田与八郎、(2)杉浦源右衛門、(3)山崎延吉、岡田菊次郎、(4)岩瀬和市、杉浦彦次、(5)板倉源太郎等がいた。そこで、総合的な学習の時間で、日本デンマークを築いた人たちについて調べてまとめ、パンフレットを作成して地域に回覧したり、発表会を開催したりして、保護者や地域の人たちに発信する活動を行う。それにより、自分たちの住まう郷土の発展に尽くした人たちを誇りに感じ、郷土を愛する心情を育てたいと考えて実践研究に取り組んだ。</p>	

1 活動時期・内容

(1) 日本デンマークを築いた人たちについて調べる (9月~11月)

9月上旬 [課題をもつ]

- ① 安城の農業が日本デンマークと呼ばれるまでに発展した経緯や、安城を農業先進地までに発展させた人物について知ることができた。  
 「明治用水を引いて台地を開墾したことが日本デンマークのもとになった。」  
 「明治用水ができて田畑を増やしたことが日本デンマークにつながった。」  
 「地域で産業組合をつくって共同化したのが安城の農業の発展につながった。」  
 「米の栽培だけでなく、多角形農業を取り入れて進んだ農業を実現した。」  
 「農林学校をつくって農業の教育を広めたことが安城の農業の発展に役立った。」  
 「板倉農場のように多角形農業を進めた人たちはとても努力をした。」 等
- ② 安城を農業先進地までに発展させた人物について調べるための課題を見出した。  
 「明治用水を引くのに努力した都築弥厚、石川喜平、岡本兵松、伊予田与八郎についてもっと知りたい。」  
 「継年期運動に取り組んだ杉浦源右衛門、水源かん養林の確保に努力した岡田菊次郎について調べたい。」  
 「農林学校の初代校長の山崎延吉、町農会で活躍した岡田庄太郎のことをもっと知りたい。」  
 「産業組合の発展に努力した岩瀬和希、杉浦彦次、山本茂吉について調べてみたい。」  
 「稲の神様と言われた岩槻信治、鶏博士と言われた高橋広治のことをもっと知りたい。」  
 「日本デンマークを支えた板倉源太郎、水上傳三郎、梨栽培の松坂啓蔵・吉沢正一について知りたい。」 等
- ③ 安城を農業先進地までに発展させた人物についてグループで調べるための課題をまとめた。  
 グループA「明治用水を引く計画を立てた人たち、計画を進めた人たちについて調べる。」  
 グループB「農業教育や農業技術を進める機関を誘致した人たちについて調べる。」  
 グループC「農業教育や技術の普及に努めた人たちについて調べる。」  
 グループD「農会・産業組合をつくって発展させた人たちについて調べる。」  
 グループE「多角形農業を導入して農業経営を行った人たちについて調べる。」



(ガイダンス学習)

9月中旬~11月上旬 [調べる]

- ① グループごとの課題をもとに調べ学習を行った。  
 ・図書『岡田菊次郎』、資料「広報あんじょう特集~人物で語る日本デンマーク~」等をもとに作成した児童向けの資料を活用して調べた。  
 「弥厚は計画を立てたが莫大な借金が残った。兵松は反対農民の説得に、与八郎は資金を集めるために努力をした。」  
 「杉浦源右衛門の継年期運動によって重い税が免除された。岡田菊次郎の働きで現明治用水の水不足が解消された。」  
 「山崎延吉は近代的農業の担い手を育て、岡田庄太郎が安城の農業の進んでいることを全国に広めた。」  
 「岩瀬和希は碧海郡の産業組合の中心として丸碧の運営を行った。山本茂吉は大岡産業組合を始めた。」  
 「稲の神様と言われた岩槻信治は『愛知旭』『千本旭』を作った。高橋広治は養鶏村を開いた。」  
 「板倉源太郎や水上傳三郎は多角形農業の経営に努めた。山本實蔵がスイカ、吉沢正一が梨栽培を広めた。」 等
- ② 地域の歴史研究会の講師や安城市歴史博物館の学芸員から取材を行った。  
 地域講師A「農業の近代化をめざした山崎延吉」  
 地域講師B「農業の合理化を追求した板倉源太郎」  
 地域講師C「丸碧の運営を行った岩瀬和希」  
 地域講師D「産業組合を発展させた水上傳三郎」  
 地域講師E「大岡産業組合をつくった山本茂吉」  
 地域講師F「農業指導機関を誘致した岡田菊次郎」  
 歴史博物館学芸員 G「農業図書館をつくった岡田庄太郎」 等



(調べ学習)



(講師からの聞き取り)



(講師からの聞き取り)

11月上旬~11月下旬 [まとめる]

- ① グループごと調べたことや取材をしたことをもとにまとめを行った。
- ② 調べてまとめたことを発表し合った。  
 「山崎延吉は農業の近代化をめざし、農民の立場に立って農政の方向を示したので『農民の父』と呼ばれているのだね。」  
 「板倉源太郎は農業の多角化を推し進め、人一倍働いて日本デンマークを代表する農業経営者の一人になったのだね。」  
 「山本茂吉はJ A東部支店に銅像があり、水上傳三郎は山崎神社に銅像があり、二人とも地元の誇りだね。」  
 「吉沢正一は、黒斑病の被害から梨を守るために有袋栽培を研究し、二十世紀梨の栽培で努力したのだね。」  
 「高橋広治は、たくさん卵を産む鶏の研究をして普及に努め、農家の暮らしがよくなるように努力したのだね。」  
 「岩瀬和希が会長をしていた丸碧が、鶏卵を売って得たお金で建てた病院が今の更生病院なのだね。」 等



(調べ学習の発表)

(2) 日本デンマークを築いた人たちについて伝える(I)～発表会～ (12月～1月)

12月上旬 [課題をもつ]

- ① 日本デンマークを築いた人たちについて調べたことを保護者や地域の人に伝えるための課題をもつた。  
 「都築弥厚の願いを、岡本兵松、伊予田与八郎が受け継いで苦勞しながら実現させたことを伝えたい。」  
 「杉浦源右衛門が進めた継年期運動のための努力や、岡田菊次郎が用水の神様と呼ばれたことを伝えたい。」  
 「山崎延吉は教育者として農民のよきリーダーだったこと、岡田庄太郎が多角形農業をリードしたことを伝えたい。」  
 「岩瀬和希や山本茂吉が進めた産業組合によって、農家が協同して事業を行うのに役立ったことを伝えたい。」  
 「稲の神様の岩槻信治、鶏博士の高橋広治らによる農業技術の向上が、日本デンマークを支えたことを伝えたい。」  
 「板倉源太郎、山本實蔵、中沢正一等の努力によって、日本デンマークの農業が支えられたことを伝えたい。」 等

12月中旬～1月中旬 [発表の準備]

- ・グループごとに発表原稿を作成し、発表練習を行った。

1月下旬 [発表会の実施]

- ・保護者や地域の人たちに、日本デンマークを築いた人たちについて発表した。  
 「① 明治用水の開削と台地の開墾」「② 農業教育の普及と農会・産業組合の創立・発展」「③ 農業技術の向上と多角形農業の導入」  
 「岡田菊次郎が安城の将来のことを考えて、農林学校や農事試験場を誘致したことを伝えることができた。」  
 「板倉源太郎等の工夫と頑張りによって、安城の農業が盛んだったことをみんなに伝えることができた。」  
 「学区には二人の銅像が建っている。銅像が建っている理由をちゃんと伝えることができた。」 等



(学習発表会)

(3) 日本デンマークを築いた人たちについて伝える(II)～地域回覧～ (12月～2月)

12月上旬 [課題をもつ]

- ① 日本デンマークを築いた人たちについて調べたことをもとにパンフレットを作成し、地域回覧を通して保護者や地域の人に伝えるための課題をもつた。

12月中旬～1月下旬 [パンフレットの作成]

- ① 見やすさ分かりやすさに心掛けてパンフレットを作成した。  
 「何を伝えたいかはっきりさせることが大事だね。」  
 「行ったことを項目ごとに分けると分かりやすいね。」  
 「年表を載せると分かりやすいよ。」「写真を載せると見やすいね。」  
 「タイトルや小見出しはカラーにしよう。」  
 「行ったことだけでなく、人となりを書くといいね。」  
 「項目ごとの分け方を工夫すると分かりやすいね。」  
 「各グループのタイトルや外枠をそろえるといいね。」 等

1月上旬～2月中旬 [パンフレット配布～地域回覧～]

- ① 『日本デンマークを築いた人たち』についてパンフレットを作成し、学区内の10町内会に5回に分け、毎回200部を作成して回覧した。

**日本デンマークを築いた人たち**  
～多角的農業の導入～(1) みずがけでんぞ記の著者 水上博三郎

**年表**

1865年(江戸時代) 伝説ゆりの長男として生まれた。少年時代、向上心が強く、塾生に勤んで通った。  
 17歳で水上家をつた。【その中の経歴は、世に伝えている。】  
 第1反は10畝で、約100アール(約3.1m四方の広さ)  
 20数年後 第3町あまりを所有するまでにまで広がっている。  
 第1町は10畝で、約100アール(約100m四方の広さ)

1910年(明治43年) 安城町農会の副会長となる。  
 新しい農業経営のふきょうにつとめた。

1925年(大正14年) 安城町の収入屋(しゃりや)をつとめた。  
 収入屋は、市町村の会計の事務をおこなう役しよ。

1934年(昭和9年) 70歳で亡くなる。

1935年(昭和10年) 山崎町の住人は、伝説ゆりの意(おん)や(とく)をしり、山崎の神楽神社に銅像を建てた。

**経歴**

【水上家の経歴】	安城町職 4名
・水上家の経営は右の表のようであった。	家 産 31畝
・このような経営ができたのは、耕うんやみずがけに苦心(家業の力)を費していたからである。	耕作面積 第3町5畝多歩
【安城町収入屋】	第5反歩(内クワ機3反歩)
・年間の収入・・・3383円12銭	米 3町5畝多歩
・年間の支出・・・1161円80銭	作 物 麦 2反歩(養豚)
・年間の利益・・・2200円あまり	レンガ5反歩～1町4反歩(養豚)
【安城町収入屋】のリーダー	ダイオ 4畝多歩
・稲作を志すために、町の青年に組織(よこや)を開設した。	サツマイモ 5畝多歩
・町の青年に人生を語ったり、山崎延吉の農業経営のしよを話したりした。	サツマイモ 1畝多歩
・ときには、なやみを働いたり、そうごん相手になっていた。	ダイコンほか 3畝多歩
・町の青年に夢と希望をあふ、指導者としての役割を担った。	果 菜 第3町5畝の3割
・「我農生」があらわれたとされている。	【ほうき】

昭和初期の水上家の経営規模(「伝説ゆり」より) (人物で語る日本デンマーク(14) 水上博三郎)

(地域回覧したパンフレット)

2 成 果

- (1) 安城を農業先進地に築いた人物を取り上げて探究的・協同的に学習を展開したことにより次のような成果を得ることができた。
  - ① 日本デンマークと呼ばれる農業先進地に築いた人物について知ることによって、地域の偉人についての理解が深まった。
  - ② 自ら課題をもって調べ、他者と協同して学び合いをする中で、主体的な学習への意欲や能力、学習の仕方が身に付いた。
- (2) 安城を農業先進地に築いた人物について調べたことを発表したり、パンフレットを作成したりすることにより次のような成果を得ることができた。
- ③ 郷土の発展に尽くした人々を誇りに感じ、郷土を愛する心情を育てることができた。

- C: 山崎延吉先生は、生徒に実習田で農業のやり方を教えただけでなく、世の中の役に立つ立派な人になってほしいと道徳も教えてすごいなと思いました。延吉先生が教えた人は、卒業した後でもとっても活躍したそうです。延吉先生は「我農生」と名乗っていたけど、農民とともに生きようとしていた人でとっても立派だと思いました。
- C: 岡田菊次郎さんが農林学校をつくる時は、村長をはじめ村人はみんな反対でした。それでも菊次郎さんは、これからは教育が大事だ、今苦しくても学校ができればきっと安城は発展すると言って、村人を説得したそうです。みんなに反対されても、自分の考えを変えない信念のある人だなと思いました。それに菊次郎さんがいなかったら、安城の農業は日本デンマークと言われなかったらなあと思いました。
- C: 板倉源太郎さんの農場は4.5ヘクタールあって、ふつうの農家の4～5倍ほどの広さでした。源太郎さんと奥さん、息子さん2人とおばあさんの家族5人で働いたそうです。だから一生懸命働かなくてはならなかったそうです。仕事を休む日は、正月、お盆、お祭りの5日だけでした。源太郎さんの家族は、1年中ほとんど休みなく働いてすごいな、とっても頑張っていたんだなと思いました。
- C: 山本茂吉さんは、地域の人たちの暮らしを少しでもよくしようと、大岡に産業組合をつくった人です。初めは組合員が少なく苦しい時もあったそうです。でも、周りの地域も加わり、組合員が増えて経営がよくなっていきました。新しいことに挑戦して、難しいことをやり遂げた茂吉さんは、すごい人だなと思いました。こういう人が地域にいたことを初めて知って驚いたし、誇りに思えました。